

上野焼 秋の窯開き

逸品求め陶芸ファン四千人が上野に来場

上野焼協同組合主催の「上野焼秋の窯開き」が10月24日から3日間で開かれ、県内外から大勢の焼き物ファンが陶の里に訪れました。各窯元渾身の新作や、JALとコラボし特別に制作した「SORA no WA」なども販売。来場者たちは丹精込めて作られた品々を手に取りながら、自分だけの逸品を探していました。



↑手触りや色味、形を吟味しながら、とびきりの逸品を探す焼き物ファンたち。

↓小学校1・2年生女子の部(600m)から競技開始。スタートーは黒土町長。



声 第18回 福智町ふれあいマラソン大会
援を背に町を駆け抜けたスポーツの秋

子ども育成連絡協議会主催の「ふれあいマラソン大会」が、11月23日に彦山川側河川敷で開催されました。町内の児童・生徒64人は8部門に分かれ、持てる力を尽くして0.6km~3kmのコースを全力疾走。子どもたちは、沿道から送られる家族や友人からの声援を力に変えながら、ゴールまで一気に駆け抜けっていました。

↓昇龍窯の酒井俊雄さんの指導の下、初めてろくろによる作陶体験をする龍南高校の子どもたち。



福智町日韓交流事業
再会と別れが強くした絆

「福智町日韓交流事業」の受入研修を11月7日~9日の3日間、福智町で行いました。10月に行われた韓国現地研修で共に行動をした龍南高校の生徒7人と感動の再会を果たした福智の子どもたち。上野焼の作陶体験やふくちのちでのものづくり、小倉城でのミッション活動で子どもたちの絆は更に深まり、最終日には、次の再会を誓い別れを惜しみました。

岳陽同窓会による平筑支援

かつての恩人支援するヘッドマーク運行

経営難が続く平成筑豊鉄道を支援するため、田川高校の卒業生でつくる「岳陽同窓会」44期生が10月1日から一ヶ月間ヘッドマークを掲示した列車を走らせました。東京や関西、福岡など7支部が資金を出し合い、今回の取組が実現。実行委員長の橋本淳さんは「存続へ少しでも力になりたい」と頬を緩ませました。



↑平成筑豊鉄道が開業した年に入学した「岳陽同窓会」高44回実行委員。

↓山笠同士が昇き棒を合わせて押し合い力比べする「けんか」は特に大盛り上がり。



金田・神崎山笠競演会
煌びやかな山笠の練りまわしに観衆大熱狂

秋の福智町を彩る一大行事「金田・神崎山笠競演会」が10月25・26日に金田ドーム前で開催されました。会場には豪華絢爛な電飾山笠8基が集結し、囃子の音色と共に圧巻の練り回しを披露。町内外から訪れた5千人以上の大観衆は、心のポルテージを最高潮に高めながら、勇猛果敢な山笠の姿を前のめりで鑑賞していました。

日 令和7年 秋の防災運動
日常を守るために家族と防災を考える

上野小学校6年生の平嶋紗羅さんが「令和7年秋の防災運動」に出品したポスターが消防長賞を受賞しました。作品数1835点の中から最優秀賞に輝いた平嶋さん。「自分にできることは家族としっかり防災について考えることだと思ったので「日頃から家族と防災」というテーマで描きました」と作品に込めた思いを語っていました。



↑「最優秀賞に選ばれたとき、驚きと嬉しさがあった」と頬を緩めた平嶋さん。

↓プロと同じコート、同じ実況で白熱した会場で行われた中学生たちの事前試合。



プロの会場で白熱した中学生らの事前試合

今年の2月にフレンドリータウン協定を結んだライジングゼファーフクオカの福智町応援デーが11月16日に北九州総合体育館で開催され、町民200名を無料招待しました。金田義務(後期)と赤池中の合同チームVS方城中チームの事前試合が会場で行われ、生徒らにとって特別な経験となり、試合後には清々しい笑みを浮かべました。